

サービス利用計画の作成が必要です。

平成24年4月から生活介護、就労継続支援、居宅介護、施設入所等の障害福祉サービスの利用を希望される場合はサービス等利用計画の作成が必要となっていました。八女市ではこれまでの間を準備期間とし、限定的な対応としていましたが、市内でサービス等利用計画を作成する事が出来る事業所が5カ所となり、計画を作成する体制が整いました。

よって、この10月から障害者福祉サービスを利用している方へ順次ご案内を差し上げることとなります。お問い合わせは八女市福祉課しょうがい者福祉課までお願いいたします。(23-1335)



上村相談支援専門員が、平成25年7月～平成26年2月まで産休に入りました。その代替として、服部真子相談支援ワーカーが勤務する事になりました。2年間の海外生活の経験があり来訪時にはニカラグアの挨拶でお出迎えいたします。**プエナスタルデス(こんにちは)**



編集後記

この夏は猛暑続きで体調の方はいかがでしょうか？幾分は涼しくなってきましたが、これからが夏の疲れが出てくるのではないのでしょうか？体調管理には注意していきたいものです。イチロー選手が4,000本安打を達成されました。とてつもない数字だと野球経験者の私も思っています。相談支援にはスポーツで言う数字はありませんが、これからも一人でも多くの方に一つ一つ適切な相談支援ができるように心がけて行きたいと思



リーベル通信

発行責任者：八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」

住所：八女市本村425-9

電話：身体しょうがい・知的しょうがい・しょうがい児

0943-22-2610

精神しょうがい 0943-22-2630

八女地区障害者等自立支援協議会の状況について

平成25年4月から、障害者総合支援法が施行されました。その中で自立支援協議会の名称について、地域の実情に応じて定められるよう弾力化するとともに、当事者や家族の参加を明確化しました。当協議会においても設置要綱の見直しを行い、部会であるリーベルネットワーク会議の充実を図りました。新たに当事者団体等の方々にも参加していただき、新たな風を吹き込んでもらうものと期待します。

また、今年当協議会委員任期満了に伴い、平成25年5月7日、委員会の方々へ委嘱状が交付されました。そして協議された主な内容としては、相談支援体制の充実を図る上で地域に根差した包括的支援を継続的に展開していくために、相談支援センターリーベルのNPO法人化に向け闊達な意見交換がなされました。次の展開に向けて自立支援協議会を中心に官民協働で検討しています。

平成26年度は、あらたな「リーベル」でスタート予定です。

このように八女地区において地域に根ざした活動が関係機関の協働のもと実施できるのは、当協議会を中心とした顔と顔の見える関係づくりや、ひとりひとりの声を大切にしようという取り組みの成果だと考えます。

当協議会二代目会長として平成21年度から長きに亘りご尽力いただいた上田正勝氏が平成25年7月9日逝去されました。上田会長の存在そのものが、地域支援の取り組みを後退させない原動力でもありました。私たちはこれからも地域生活の充実のために、一人ひとりの声に耳を傾ける取り組みを継続していくことを誓い、上田正勝氏のご冥福を心よりお祈り致します。

合掌

第3回リーベルネットワーク研修会が開催されました。 ソーシャルワークを活かした教育支援の在り方



門田氏講演

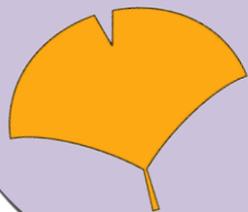


グループワーク

8月20日（火）第3回リーベルネットワーク研修会が立花市民イベントホールで開催されました。今回の研修会は、毎年夏に実施してきた相談支援事業所と特別教育支援コーディネーターの先生方の研修会と教育委員会が主催する特別支援学級の先生方の研修会が共同で開催する形になりました。学校の先生や、教育事務所、福祉事業所、相談支援センターなどたくさんの機関の方に参加していただきました。講師として、久留米大学の門田光司教授をお招きして、学校におけるソーシャルワークや他の機関との連携と協働、支援計画についてご講演いただきました。その後、スクールソーシャルワーカーの高口恵美先生による事例の紹介が行われました。最後に、グループワークで事例検討を行いました。短期支援計画の作成を目標に活発なご議論をしていただきました。1グループ2～3分で小、中、高校、特別支援学校の先生方から発表をお願いした後、現状報告をして、門田教授より講評をいただきました。

アンケートには「色々な機関の人たちとのグループ編成で、多角的な視点での考えを聞くことが出来、大変良かった。」「ソーシャルワークの基本的な考え方が大変勉強になった。」「子供の行動等現象面で見える事を多面的にとらえ、協働して対応していく事の大切さを理解する事ができた。」「教育活動に活かして行きたい。」等の意見をたくさんいただきました。

ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



第1回グループホーム（GH）、ケアホーム（CH）の集い



平成25年6月30日（日）「GH・CHのつどい」を開催しました。開催の経緯は、生活支援分科会でGH・CHのアンケート調査を行い、利用者の生活や運営上の課題について意見交換を行いました。その中で、実際生活している利用者の思いはどのようなのかな？という疑問が出て、語りあう場を設けてはどうかという意見があり、今回の開催に至りました。

八女市内のGHに参加を呼び掛け、47名の方に参加して頂きました。「どんな内容にするか？」「将来的には自立支援協議会に当事者として意見を発信出来れば良いな～」等大きな理想もあったり、その前に「生活上の金銭問題の啓発は？」等色々意見が出る中で、初めての開催であり、「行って良かった、楽しかったね」と感じてもらえること、「次に繋がるようにしよう」と意見でまとまりました。

会場は、八女市社会福祉会館の3階会議室、「広すぎるかな」と思いましたが、程よい広さでした。スタッフも合わせて参加は72名。ふるさと（和田さん）の司会で開会。5事業所ごとのGH・CH利用者からの自己紹介。陽だまりの里のPRはとても上手でした。その後は昼食を囲んで、カラオケ、ビンゴゲーム。正味3時間。カラオケは歌って踊っての賑やかなGHや、演歌をしつとりと歌い上げるGH等、事業所の色を感じられました。最後のビンゴゲームは、陽だまりの里の名司会者（本廣氏）の軽快な進行で大いに盛り上がり終了となりました。

その後のアンケートでは、半数以上の方が参加して大変良かった、「他のGHの人と話したり交流をしたい」「又、開催して欲しい」「次も参加したい」等意見を頂きました。又、次回はスタッフとして参加したいですかの問いには、17名の希望がありました。

このありがたい意見を参考に次回の開催に向け、検討したいと思います。只、今回参加費(1,000円)が高いという意見もありましたので、より多くの方が参加できるよう工夫もしていきたいと思っています。

開催にあたっては、買いもの、弁当の手配、カラオケの準備、司会等、生活支援分科会の方には大変協力を頂いた事に感謝申し上げます。楽しい時間をありがとうございました。

